

2001年 3月 1日 Vol. 20



表紙イラスト 小林 明日香さん

企業が動くと社会が変わるか? ～NPOサポート資源 開発プロジェクト～

昨年5月にスタートした「サポート資源提供システム」の開発プロジェクトが、2月15日の全国シンポジウムで一つの区切りを迎えました。NPO法という法的基盤ができ、活動が認められ活発化していくなかでも、資金・人材・情報・モノなどNPOが求めているものは全然不足しています。企業がNPOを支える意義とシステムの重要性がそこにあり、またNPOを支援するNPOである当センターの果たす役割も求められているわけです。

今回の開発プロジェクトで注目される点がいくつかあります。まず県内の企業・団体30数社が関わっていることです。大手企業の少ない地方都市で、このような広がりを持ったことは、当日のパネリストの指摘があったように評価されていいと思います。伏線としての「宮城県地元企業のNPO意識調査」が活かされていますし、当センターの企画に応じた企業側の姿勢も認められるべきでしょう。

次に包括的なシステムを組み立てていること、かつ「せんだい・みやぎ方式」になる可能性を持っていることです。資源提供は、これまで多くで実施されていますし、成果もあげています。しかし個別分散的なものではなく、一つの社会的なシステムになることに意義があります。そして全国的にいろいろな試みが進むなかで、オリジナルな部分（システム構築企業の存在、双方向性、NPOセンターの関わり方etc.）が各地の動きと刺激しあい、より充実していくのではないかでしょう。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 八木 充幸

内容

NPOサポート資源の提供システム・7月から試験運用

東北リレートーク「白石市市民活動フォーラム」

講座報告、部会報告、本「社会起業家」、事務局活動報告

会員の方へ、寄贈報告、みんなん編集後記 ほか

企業・団体・個人からNPO・市民活動団体・ボランティア団体への資源提供を NPOサポート資源の提供システム、7月から試験運用！

せんだい・みやぎNPOセンターが、昨年の5月から県内の企業約30数社とはじめた「地域におけるボランティア・市民活動サポート資源提供システムの開発」(以下、サポート資源開発プロジェクト=SSK)のシステムの開発状況を報告します。

このシステムは、企業、団体、市民からNPO、市民団体、ボランティア団体への資金・物・人・ノウハウの支援を仲介するもので、特徴として以下の4つの要素を持っています。

①NPO・団体のエントリーシステム

団体のニュースレター、規約、活動報告などをもとに団体リストを作成。隨時支援者に送付する

②企業など支援者の参加システム

A:システム構築企業=システムの維持発展のために会費を負担する企業とB:システム利用企業=システムを利用してNPOに資源を提供する企業

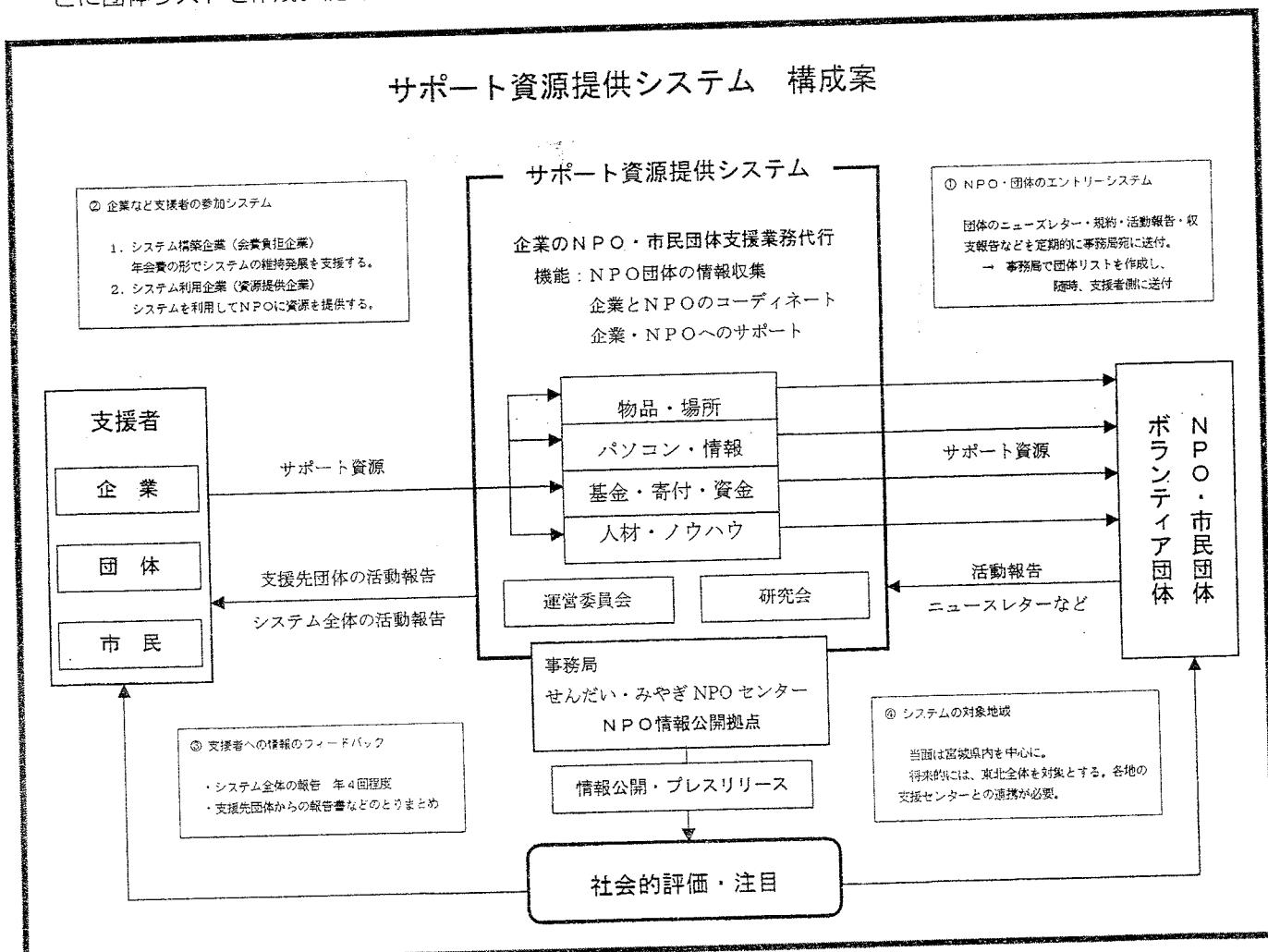
③支援者への情報のフィードバック

支援を受けたNPOからの報告書などを送付、支援情報を公開することで支援者・NPO双方の社会的評価が高まる仕組み

④システムの対象地域

当面は宮城県内で展開し、将来的には東北も視野に入れる。東北各県のNPOの中間支援センターとの連携をはかる

サポート資源提供システム 構成案



また、このシステムを運営するための運営委員会にシステム構築企業などが参加することやNPO情報公開拠点としての機能を加えることで、信用性を高めていきたいと考えています。

今後の予定としては、4月までシステム細部の詰めを行い、6月までシステム参加企業の募集・呼びかけ、NPOのエントリー受付、7月からシステムを試験運用し、10月から本格運用を実施したいと考えています。

先日行われた全国シンポジウム〔企業が変われば社会が変わる〕には、仙台はもちろん東京から駆けつけた参加者もあり、終了後には早速、NPOからのエントリー希望の声も届きました。今後は、このシステムのPRや参加を促すためのパンフレットを作成する予定です。

■全国シンポジウムより(2月15日開催)

●大滝精一氏 せんだい・みやぎNPOセンター代表理事、東北大学大学院経済学研究科教授

NPOとの連携が企業本体に与えるインパクトは主に以下の4つにまとめられます。①企業における仕事の仕方や体质・社内風土の改善 ②新しい顧客ニーズ(社会的問題)の開発・探索 ③事業開発・共同事業から新しい事業フィールドを生み出す ④企業のステークホルダー(利害関係者)の見直し。NPOと企業をうまくつなげば、これらを効果的に促進することができるでしょう。これからは、NPOと企業がともに一過性でないよい関係をいかにして構築していくかが求められます。仙台でこのシステムを発信すれば地方レベルでの同じ様な動きが可能になることを示すことにもなるでしょう。

●岸本幸子氏 パブリックリソースセンター理事・事務局長

企業は従来型の「社会貢献」ではなくNPOとの連携を「投資」としてとらえることが大切です。そのためには、企業が経営方針の中で連携する目的を定めることが重要です。NPOと対話し小さくてもいいから実績の積み重ねを行うことでその「投資」は始めて成立します。連携による具体的な実績が、顧

客開拓にはじまる新商品の開発に結びつきます。

●針生英一氏 針生印刷(株)代表取締役、協同組合マルチメディアマジック理事長、せんだい・みやぎNPOセンター理事

「次のビジネスの種はコミュニティにあるのではないか」と感じ、地域に関わることによる地域の情報化支援をしてきました。その結果、社内で具体的にメリットがあったポイント4つをご紹介します。①効果的な顧客ニーズの把握 ②社内意識の変化 ③仕事の質の転換 ④会社人間でない社会とつながりを持つ人材の育成。企業が持っている様々な資源はどんどんNPOに活用してもらい、双方にメリットのある形をつくり、共に事業を進めていけるのではないかと考えています。(シンポジウムに関する詳しい内容は、4月末発行予定の報告書をご覧下さい。)

◆全国シンポジウムでは下記の方々に報告をしていただきました。御礼申し上げます。(敬称略)

物品・場所/工藤孝太郎(東北電力宮城支店)
パソコン・情報/佐々木勇(システムワン代表取締役)
基金・寄付/浅見紀夫(一ノ蔵代表取締役・社長)
人材・ノウハウ/遠藤聰子(東北電力地域交流部)

河北新報 2001年2月8日朝刊より



NPOマネジメント実践講座を企画して

去る2/7-8に柴田町、2/21-22に古川市にて開催された「NPOマネジメント実践講座」(主催：宮城県)。各地域共2日間にわたる講座には、柴田町：43名、古川市：62名の参加をいただきました。県内では2/20現在、NPO法人の申請数が82団体となり、71団体が認証を受けています。今回、法人格の有無に関わらず受講した方々の活動は、高齢者福祉、障害者福祉、まちづくり、環境保全、社会教育など、さまざまな領域にわたっています。また、参加者の状況も、設立したばかりの団体、創生期

から3～4年経過している団体、次の変革期にあたる段階の団体、立ち上げを検討している方などと多様でした。

その結果、それぞれ課題とすることは異なりましたが、主に「人材」「モノ・カネ」において不足している状況の解決法、「組織」の硬直化・未整備状態をどのように変えられるか、判断の基準や指標となるものの手がかりなどが求められていたようです。講座後にご回答いただいたアンケートでは、両地域とも「マネジメントの基本」「組織体制」「資金調達」の順に内容に対

する興味が高く、「目的や組織体制が見直せた」「体制の不安定さ(問題点)がチェックでき、これからの取り組みの筋道が見えてきた」などの感想をいただきました。

最後に今回はじめての試みとして、開催地の市民活動・NPO支援を推進している団体に広報のご協力や当日のサポートをいただきました。「白石市民活動フォーラム」と「古川NPO支援センター運営委員会」のみなさんご協力ありがとうございました。このような協力体制が組めたことを機に、お互いの地域をつなぐパートナーとしてともに歩んでいきましょう。

(青木ユカリ)

介護系NPOパワーアップセミナーを開催して

□主催：住友社会福祉事業団、

日本NPOセンター

□共催：せんだい・みやぎNPOセンター

2000年4月からの介護保険の導入は、各地の介護系NPOに大きな変化をもたらしました。法人格の取得に際し法人化することは、組織内外ともに介護系NPOのミッションとその価値観を問う機会になったようです。

今回の「介護系NPOパワーアップセミナー」では、組織としての意思決定システムの整備や財源確保、人のマネジメントなどさまざまな課題が浮かび上がり、組織経営に対する関心の高まりを感じました。東北

地域を対象としたこのセミナーは、昨年から今年にかけての全3回シリーズ。北海道、青森県、岩手県、福島県、宮城県から団体数では19団体が参加し、その他、設立、発足前に個人参加する方もあり、延べ59名の参加となりました。現在、宮城県内のNPO法人の中で「高齢者福祉」を主な分野とする団体は28(申請団体数に対する割合は34%)。その内25団体は認証済み。2/20現在)また、その申請数を広域市町村圏の分布で見ると、登米圏1、石巻圏4、大崎圏2、仙台都市圏18(内仙台市内11)、仙南圏3になります。

このセミナーを通じて、多様な参

加の形態で活動する介護系NPOでは、人的基盤や財源基盤を整えることは、団体ごとに試行錯誤を積み重ねている状況がよくわかりました。印象的だったのは、居宅介護指定事業者であることの責任やサービスの自己評価を通じて、本来行ないたい“たすけあい”的活動を見つめ直すようになったという参加者からの声と、財源基盤の講座の中で講師の山岡さんが話されていた「保険サービスで収入を得、保険外サービスの開発にかける。その開発こそNPOが取り組むべきところではないか。」ということでした。

“NPOならでは”的活動とは何か?これは介護系NPOに限らず、事業を開発していく視点の中で大切にしていきたいポイントとなりました。

(青木ユカリ)

センドードサロン

部会報告

第4回PONPO-NETは豪華3本立て！

第50回テーマ「もちつもたれつ新年会」
第51回テーマ「NPOの有給スタッフ交流会」

第50回センドードサロンは「もちつもたれつ新年会」ということで、2001年1月15日（水）、せんだい・みやぎNPOセンターにて開催されました。「新年会」と言えば、お酒、隠し芸、無礼講…。いろいろありますが、センドード風の新年会もやっぱりお酒そしておしゃべり（辛口、甘口、濃口？）につきます。そのネタは普段の仕事やNPO、参加者それぞれの「今年の目標」と幅広いこと。無礼講？ということで、普段では聞けないことをあえて質問してみたり、そこから活動のヒントや人生？のヒントを見出したり。センドード初参加の私としては、とても刺激的な新年会となりました。（田中聰子）

第51回センドードサロンは「NPOの有給スタッフ交流会」ということで、2001年2月19日（月）、せんだい・みやぎNPOセンターにて開催されました。NPOで働く有給スタッフの皆さんに予想以上にたくさんお集まりいただき、お互いに有給スタッフの現状や課題について話し合う貴重な交流の場となりました。「有給スタッフと無給のボランティアがどのように関わっていけばいいのか」「“有給”で働くことにより“責任”を持って仕事をするという意識が生まれる」など活発な意見が交わされました。

今後もこのような有給スタッフの交流の場を開いていこうということになり、今後の展開が期待されます。乞うご期待！（安国起世）

①アイセック「国際インターナショナル企業研修生プレゼンテーション」：今年の受入企業は東北エニコム。ドイツからの研修生は昨年12月から3ヶ月間、主にプロポーザル作成と営業を担当しているとのこと。今回はドイツでサイバービジネスを行っている民間企業「ケリードット」の事例報告をしていただきました。

②東北大学生高野州永さん修士論文報告：「企業とNPOの連携に向けての一考察」というテーマの論文が完成。事例調査成果をふまえ、企業とNPOの連携における両者の合意形成を「メリット・ニーズ・シーズ」という枠組で分析。針生印刷と仙台エナメルクラブの連携における関係の発展段階が、出会いから協働に至るまでの過程で詳細に分析されています。

③CILたすけっと「タウンビリティ」パンフレット作成ボート：「団体内で作ると、他の人に分かりにくいものになってしまう」とのことから、案に対する意見を参加者が発言。今後もメールやFAXで継続して意見を寄せていくことになっています。

次回（最終回）は3月19日（月）18:30～20:30東北エニコム7階会議室にて。内容はパンフレットボート・当NETの今後の在り方についてを予定。（中津涼子）

理事によるパワーアップコース大好評！

■各回の資料を販売中。当センター事務局までどうぞ。一講座千円。
藤理事／コミュニケーション（1月11日）大滝・山田
理事／IT革命とNPO（1月26日）針生・加藤
理事／地域通貨（2月14日）新川・加藤理事
(遠藤智栄)

①各理事と相談の上に実施したテーマ別の広報が生かされた。
②充実したレジメの作成を行った
とで講座内容の冊子化に近づいた。
当センターとして、とても意義深い講座でした。

一方、参加者からも様々な声が
相次いでいます。

③メディアなどで聞いたこともあり最近気になっているテーマだったので、タイムリーでよかったです。

事務局では現在、4月以降の企画を検討しています。今後のご参加をお待ちしております。

1月からはじまった理事によるNPO実践講座／パワーアップコースが大好評を得ています。講座を開催して気づいた点は①NPOとは関わりがないが地域づくりに興味があるビジネスマン・行政マンなど市民の参加が増えた。
②各理事と相談の上に実施したテーマ別の広報が生かされた。
③充実したレジメの作成を行ったとで講座内容の冊子化に近づいた。当センターとして、とても意義深い講座でした。

一方、参加者からも様々な声が相次いでいます。

①寺子屋風で気軽に参加でき、参考になる内容だった。

②さらに発展した、もっと実践的な内容の講座を継続して開催したい講座でした。

東北リレートーク

宮城県 白石市 白石市市民活動フォーラム

「自由に利用できる施設がほしい、情報交換の場があったらしいのに。」ボランティア団体から、こんな意見がだされました。昨年3月、白石市との意見交換会のことです。その後、準備会をつくり何回か話し合いをかさね、市から施設を借りること、名称を「白石市民活動支援センター」とし、利用者で組織を作り自主管理運営することにしました。10月、運営する組織として「白石市民活動フォーラムを16団体で発足、11月1日、市内城東コミュニティセンターに併設した施設を、無償で借り受け、支援センターを開設しました。

現在、会議室2つ、作業室（印刷機、コピー機、裁断機、紙折機）、事務室（公衆電話、ファクシミリ、ロッカー）、掲示板を会員で利用しています。情報交換については、パソコンのネットワークと情報誌の発行を準備していると

ころです。また、生協セラビ白石店の一角に設置する「(仮称) 地域福祉情報サロン」の事業に社会福祉協議会、生活協同組合と協同で企画などに携わっています。この時、それぞれの指向性などについて話し合うことがあり、組織体制の点検、ミッションと戦略の見直しが必要であることを感じ、改めて組織運営の基本の大切さを確認しました。

これからひとつひとつ、実験と検証をくりかえし、障害者もお年寄りも小さな子供も安心して生きられる地域社会、そのための“しくみづくり”を支援する組織として、地域社会で多くのひとの認知を受けるよう、つくりあげてゆくつもりです。

（白石市市民活動フォーラム／事務局 丸山）

白石市市民活動フォーラム

〒989-0225 白石市東町1丁目6-1
電話 0224-22-6880
FAX 0224-22-6881

BOOK

社会起業家

PHP新書 町田洋次 著
本体660円

どれだけ価値観が多様化しても（その定義は多様とは思うが）、「よい社会」の到来は誰もが願うに違いない。しかし、その実現のために私たちに課された宿題は思いの外多く、そして重い。

本書は、医療・福祉・教育・環境・文化等の社会的課題解決のための事業を通して、社会を活性化していく人たちを「社会起業家」と呼び、具体的な事例を基に紹介する。英・米の事例の他に、日本からは「老人向け緊急通報サービス」「インターネット・ハイスクール」「日本初のチャータースクール（民営の公立学校）設立運動」が紹介される。

90年代後半に英国で提唱された「社会起業家」の活動内容は多種多様であるが、彼らはみな、プロ意識をもって組織を経営し、社会的な事業を、順次、発展・拡大させていく。その実現のために、彼らは数多くの人材を連携させ、ひいては、個別の事業成果に加え、「価値観の共有と相互の信頼に支えられた協力の

ネットワーク」という、「よい社会」の実現に向けた、得難い果実をも誕生させる。「よりよい市民社会」の担い手たるNPOにも、社会起業家的に活動している人が、既に数多く存在するとと思う。しかし、NPOが行政・企業に続く第三のセクターとして社会に浸透し、その機能を充分に發揮していくためには、まだいくつかの段階が残されている気もする。NPOがそのステップを駆け上がるとき、「社会起業家（的）」であることが、キーワードとなるのではないか。

本書は、「社会起業家」と呼ばれる人々の紹介を通して、社会再生の担い手となる新しい生き方を提唱した。

これから一歩を踏み出そうとする読者にとって、その背中を押してくれる一冊であると思ふ。

（ボランティア・スタッフ 須藤達也）

事務局活動報告 (12/11~2/22)

活動
報告

■センター・事務局関連

- ・サポート資源開発プロジェクト 第8回研究会 (12/13)
　　全国公開シンポジウム (2/15)
- ・市民活動サポートセンター 全体ミーティング (12/13・20・
1/10・17・24・2/7・14・21)
- ・これだけは知っておきたいNPO実践講座／主催：当センター
　　経営コース「資金開発」講師：青柳光昌氏、加藤 (12/13)
　　経営コース「会員リクルートメント・マーケティング」講師：紅邑 (1/23)
　　パワーアップコース「IT革命とNPO」講師：針生、加藤 (1/26)
　　パワーアップコース「地域通過」講師：新川、加藤 (2/14)
- ・センタードサロン「県内の支援センター事情」(12/15)
　　「NPO有給スタッフ交流会」(2/19)
- ・事業運営会議 (12/21 加藤、紅邑、遠藤、高田、青木、菅野 1/23
　　加藤、紅邑、遠藤、高田、松尾 2/6加藤、紅邑、遠藤、高田、青木、
　　田中 2/20加藤、紅邑、遠藤、高田、青木、遊佐)
- ・仙台市市民活動サポートセンター休館日 (12/27・1/31)
- ・年末年始休暇 (12/29-1/3)
- ・センター会議 (1/31)

■NPO関連・他

- ・ファシリテーター養成研修／日本財団 (12/11 加藤)
- ・NPOマネジメント講座／暮らしの企画舎、茨城NPOせんたー・コモ
ンズ (12/12加藤)
- ・北上市ネットサポート講演 (12/18加藤)
- ・ジェイク専門学校講演／郡山市 (12/19加藤)
- ・青森パートナーシップ委員会 (12/20加藤)
- ・デラネット研修 (1/14紅邑)
- ・協働コーディネーター・ファシリテーター養成講座／NPO情報研修・
情報センター(1/20-21紅邑)
- ・米国デラウエアNPOマネジメント研修会 (1/21-29青木)
- ・仙台市宮城野区社会協議会講演 (1/26紅邑)
- ・北海道NPO経営育成講座 (1/27紅邑)
- ・DCs委員会 (1/30加藤)
- ・介護系NPOパワーアップセミナー＜第3シリーズ＞／主催：住友社会
福祉事業団、日本NPOセンター 共催：当センター (2/2-3)
- ・ボランティアコーディネート・マネジメントセミナー／宮城県社会福祉
協議会 (2/4 青木、遠藤、菅野)
- ・河南町ワークショップ (2/6紅邑)
- ・茨城県経営者協会シンポジウム (2/9加藤)
- ・全国ボランティア研究集会＜佐賀＞ (2/10-13加藤)
- ・「企業とNPOとの連携について」講演／東北電力 (2/14紅邑)
- ・九州NPOサポートフォーラム／NPOふくおか (2/17遠藤)
- ・特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター第20回理事会
(2/22)

■自治体関連

- ・まち美化推進ネットワーク世話人会 (12/15加藤・紅邑)

- ・中心市街地活性化委員会 (12/15 1/12 紅邑)
- ・環境学習リーダー養成講座 (12/16・2/4反省会 加藤・遠藤)
- ・スポーツボランティア退会支援スタッフのための基礎研修会 講演／県
障害者スポーツ大会課 (12/16遠藤)
- ・中核機能拠点整備委員会／県 生活文化課 (12/21加藤)
- ・大規模事業委員会／県 (12/22紅邑)
- ・開府400年委員会 (12/18青木12/25紅邑)
- ・レベルアップ講座／主催：仙台市 企画実施：当センター (1/20・2/3)
- ・「NPO基礎」講演／秋田県 (能代市：1/22 大曲市：1/31 秋田
市：2/1加藤)
- ・市民版環境ISOシステム構築 ワーキンググループ／市環境局
(1/24加藤・遠藤)
- ・角田まちづくりプロデューサー養成講座 (1/25加藤・遠藤)
- ・環境学習リーダー成果発表会／市環境局 (1/28加藤・遠藤)
- ・住宅基本計画／市 (1/29紅邑)
- ・宮城県行政改革推進管理委員会／県 (2/1紅邑)
- ・群馬県ボランティア・NPO研究交流会 (2/3加藤)
- ・NPOマネジメント実践講座／県生活・文化課 (2/7-8 : 柴田町
2/21-22 : 古川市)
- ・「さわやかトーク」／市市民局 (2/8紅邑)
- ・社会教育委員会／市 (2/9・13紅邑)
- ・環境学習プランワーキング会議／市環境局 (2/13 紅邑・遠藤・加藤)
- ・マネジメント講座＜四日市＞ (2/16-17加藤)
- ・みやぎNPOプラザ審査会／県 (2/20紅邑)

■取材・ヒアリング・相談

- ・ビーズリング 白岩さん相談 (12/14加藤)
- ・クリーンアップ蒲生 伊藤さん来訪 (12/15加藤)
- ・東北ミニグループ 中沢さん相談 (12/15加藤・青木)
- ・福島大学 遠藤さん ヒアリング (12/15高田)
- ・東北大学教育学部成人継続教育演習ゼミ生 来訪 (12/20遠藤)
- ・無等日報 (韓国) 金永泰さん、姜權朴賢淑さん 来訪 (12/20遠藤)
- ・延世大学校 政治外交学科 副教授 張東震さん、アイカス氏家さん來
訪 (12/21遠藤)
- ・那覇市NPO活動支援センター 横山さん (1/12紅邑)
- ・東北大学長谷川ゼミ学生ヒアリング (1/16紅邑)
- ・岩手県立大学 高橋さん (1/24紅邑)
- ・北九州市ヒアリング (1/18紅邑)
- ・藤原さん 相談 (1/31紅邑)
- ・地域振興センター (2/5紅邑)
- ・北九州市市民局 ヒアリング (2/6加藤)
- ・毎日新聞 飯山さん 取材 (2/9高田)
- ・東北大学 吉原さん他 ヒアリング (2/10紅邑)
- ・いわてNPOフォーラム21 ヒアリング (2/14加藤)
- ・中央大学 広岡ゼミ学生 ヒアリング (2/16加藤)
- ・長野県NPOセンター ヒアリング (2/19加藤)
- ・京都府 ヒアリング (2/20加藤)

サポート・ご協力 ありがとうございます(敬称略)

●平成12年度会員 (振込順、12/11~2/28)

(継続) 沖永哲哉、桜井勤、コミュニティおきなわ、面川義明、パペットハウス、山岡義典、仙台ダルク、古川青年会議所、南條成子、穴澤鉄男、渡邊摩里、小島妙子、女性のための離婚ホットライン、いのちの電話、仙台インターネット推進研究会、小嶋淳一、荒井勝子、ひまわり、今野美保子、柳川和雄、須藤達也、日本労働組合総連合会宮城県連合会、広野純朗、赤須治郎、川崎あや、ささえ愛山元、ふくしまップ宮城、古川隆、齋藤衣代、ひと・まち・未来ネットワーク今野清子(新規)遠藤啓介、上矢智幸

●事務局ボランティアスタッフ

青木信、内海睦夫、太田勇樹、緒方布美子、花多山洋子、佐藤聰子、清水菊男、杉本里織、須藤達也、高野州永、登坂宗太、細野泰志、本郷正武（五十音順）

・企業協力 東北エニコム(PONPO-NET)の会議室を無料提供、岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロツ

クス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

◎ 俗文化研究者、評論家、編輯家。1950年生，祖籍廣東新會，香港人。1970年大學畢業後，先在中大中文系擔任助教，後到中大圖書出版社工作，直至1980年辭職，之後在報章雜誌擔任編輯，並開始發表文章。1982年，他創辦《蘋果日報》，成為該報總編輯，直至1997年該報被收購。之後，他繼續在報業工作，並參與電影製作。他的著作包括《香港電影研究》、《香港電影研究（續）》、《香港電影研究（三）》等。

物品あれこれ 大募集!

七

●皆さんのまわりで使わなくなつた下記の物品はありませんか、ご連絡、お待ちしております。

- 書棚(大・中・小それぞれ) 資料の増加に伴い、保存する棚が無くなってきてています。
 - 食器棚 来客の増加でカップや湯飲みを置く大きめの棚が欲しいところです。
 - 事務机・事務用椅子 ボランティアスタッフが利用する机が不足しています。椅子と机がセットだとうちしさ2倍です。
 - 折りたたみ椅子 当センターで会議や講座を開く機会が増えてきました。丈夫で軽い椅子はありませんか。
 - パソコンデスク 中古パソコンを置くための机を探しています。
 - お歳暮各種 お茶・コーヒー・湯飲み茶碗など、すぐにも欲しい品々です。

NTT東日本宮城支店様より、マルチメディア環境整備を支援する目的で、中古パソコン12台を寄贈していただきました。ありがとうございました。今後は、パソコン作業環境を整えながら、いただいたパソコンを有効に活用していきたいと考えています。これからも、ご支援をよろしくお願いいたします。

会員の方へ

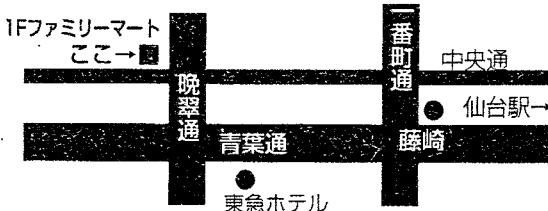
E-mailを教えて下さい

様々な情報の受発信で、今後E-mailを活用したいと考えています。アドレスをお持ちの方は「minmin@jca.ax.apc.org」までメールをいただけますでしょうか。個別にニーズにあった情報をお送りできるようにしないと考えています。

■ FAX番号を教えて下さい。

大切な情報を素早く会員の方に手軽に送るために「FAXみんみん」をお送りしています。前はお持ちでなかった方、FAXみんみんが届いていない方、ぜひお知らせください。

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんみん編集後記

■疲れ気味の自分に元気をと、本屋の児童書コーナーへ。「ヴァン・ゴッホ・カフェ」(シンシア・ライラント作)、「超・ハーチニー」(角住直子作)を新登場。大当たりで大

感激!!いい本は、俯瞰で世界を見ることを思い出させてくれた。(紅邑) ■先日、いわき市にあるふくしま海洋水族館に行ってきました。遠くから見ると風呂場のダンゴムシのような外観はさておき、内容はかなりの薛ばりでした。

■「温泉に行きたいなあ」というのが最近の口癖。それもきちんと休憩室を予約し昼寝・マッサージつきで。行きたい近場の温泉もいろいろあるのですが行けずじまい。「温泉&地元料理」情報と旅の仲間をお待ちしてます。(遠藤)

●みんな編集部にご感想をお寄せ下さい！春の催事・イベント情報などお待ちしています。